

12月の天体ショー

すっかり冬の空気となり、星空が綺麗に輝く季節となりました。12月は流星群、月と惑星の接近など、注目の天体イベントが目白押しです。

☆月が金星・土星・木星に次々接近

9日(木)の関東は、4日ぶりに天気が回復。夕方からは、南の空で細い月と木星の接近が見られそうです。月と木星の下には金星や土星もあり、空がにぎやかになりそうです。夜にかけても晴れるため、星空指数は「80~100」と高く、十分に楽しめそうです。ぜひ空を見上げてみてください。日が暮れると全国的に冷えますので、暖かくして観測しましょう。



☆ふたご座流星群が極大

14日(火)、ふたご座流星群の活動が極大となります。極大時刻は夕方16時ごろと予測されており、前日13日(月)の宵から14日(火)明け方にかけてと、14日(火)宵から15日(水)明け方にかけての2夜が見ごろとなります。両日とも2時ごろまで上弦過ぎの月明かりが空を照らしているため、見やすいのはそれ以降から



明け方までとなります。アストロアーツ社によると、見晴らしが良いところで1時間あたり20~30個ほどの流れ星が見られるとのこと。また、数は減るものの前後数日間も見ることができます。流れ星は空のあちらこちらに飛ぶので、街灯や月から離れた方向を中心に、なるべく広く空を見渡してみてください。

☆金星と水星が接近

12月下旬ごろ、夕方の西南西の低空で、水星と金星が接近して見えます。最接近は29日(水)ごろで、5度未満まで近づき、前後数日間は双眼鏡の同一視野内で見ることができます。金星を目印にして水星を見つける好機です。日の入り30分後の高度が10度未満とかなり低いので、西南西の空が開けたところで観察してみてください。かの有名なコペルニクスも生涯見ることができなかったと言われている水星をぜひ観測してみましょう。



☆最も遠い満月

12月の満月は、2021年に起きる満月としては最も遠い位置にあります。月は12月18日(土)11時15分に遠地点(地球から最も遠ざかる点)を通過し、翌日19日(日)13時36分に満月となります。満月のときの地心距離(地球の中心と天体の中心の間の距離)は約40万6000キロメートルです。

2021年で最も近い満月は5月26日でした。その時の満月と比較すると、視直径は約12%小さく、約22%暗くなります。

